

第4回目 打保・蟹寺発電所維持流量検討会 会議録

開催日 令和7年1月27日（月） 14:00～
会場 飛騨市 宮川振興事務所 2階会議室
参加者 構成員 18名 清流みやがわをとりもどす会 5名、宮川下流漁協 3名、
高原川漁協 3名、富山漁協 2名、種蔵そばまつり実行委員会 1名、
（株）飛騨ゆい 1名、飛騨市 2名、有識者 1名、
オブザーバー他 13名 富山河川 3名（web）、古川土木 1名、
関西電力（株）6名、事務局（飛騨市） 3名、詳細は、別紙参加者名簿
合計31名

1. 開会の言葉 飛騨市宮川振興事務所 清水次長
2. あいさつ 飛騨市基盤整備部 森部長
3. 維持流量の検討について 司会進行：座長 高橋先生

(1) 刺し網期間中の河川環境調査結果 ■ 宮川下流漁協

打保ダムから河川維持流量の放流中である6月と維持流量抑制中の10月に河川環境調査を実施した。

■ 放流量調査

- ・ 維持流量抑制73日間（8/20～10/31）

	打保ダム	蟹寺えん堤
--	------	-------
- ・ 維持流量のみの日数 43日間 0日間
- ・ 日平均放流量 7.9m³/s 8.7 m³/s

■ 水質調査

- ・ 実施日 6月5日、10月2日
- ・ 各調査地点における水質はおおむね環境省が示す生活環境の保全に関する環境基準のA類型および水産1級を満たす水質であった。
- ・ pHが高いが魚類に影響は無い。

■ 水面水深計測調査

- ・ 実施日 6月10日、10月2日
- ・ 動植物の生息又は生育地の状況 へ与える影響
「正常流量検討の手引き」記載の「魚種別の必要水利条件の参考例」を参考。
今年の結果として、ほぼすべての調査地点における流速、水深の平均値は各魚種に必要とされる水理条件を満たしている。また、一部のヤマメおよびウグイの産卵に必要とされる条件を満たさない調査地点についても、測定測線の13～40%の幅では条件を満たしている。
- ・ 景観・観光へ与える影響
評価基準である水量感（見かけ水面幅と見かけの河川幅の比）の0.2は満たしており、概ね満足であると考えられる。

■ 魚類調査

- ・ 実施日 6月10日 10月2日
- ・ すべての調査地点においてウグイを捕獲することができた。
- ・ 資源量の動向の評価については、今後5年間の調査の結果の比較をもって行う。

■漁獲量調査

- ・ アユ資源の動向の指標として、アユ漁獲量および漁業者の動向を用いる。
漁業従事者 308人、遊漁者数 6,921人
アユの漁獲量 18千匹
- ・ 資源量の動向の評価については、今後5年間の調査の結果の比較をもって行う。

(2) 宮川の鮎による地域コミュニティについて ■宮川振興事務所

- ・ 宮川村時代も杉原観光ヤナがありたくさんの方が訪れた。
- ・ 鮎の販路拡大には、刺し網漁による鮎の供給量が必要である。
- ・ 市場から鮎の出荷量を増やして欲しいとの要望がある。
- ・ アユの買取り、販売も年年増加している。
- ・ 宮川町の宿泊施設は、アユ釣り客に支えられている。
- ・ 漁協の協力のもと宮川町の児童に宮川の鮎や伝統漁を知ってもらうための体験行事を行っている。
- ・ 出荷の鮎の販売金額は把握していない。

(3) 今後の検討会について

意見の主な内容

- ・ この検討会は河川維持流量の抑制により河川環境への影響を検討することが直接的な検討会の課題や目的であるが、環境への悪影響、アユの漁獲量の調査のそれが地域振興にどのような影響を与えたのかという流れで検討する方が良い。
- ・ これまでの調査以前のデータがないので、今年度のデータのみ解釈は難しい。
- ・ 地域と密接につながった漁業というところで評価していく必要がある。
- ・ アンケート調査など毎年続けていけばどうか。
- ・ 河川によって環境状況が異なるため、一律的な規制ではないと思っている。
- ・ これからも川と関わりながら楽しく暮らしていきたい。
- ・ 維持流量の抑制に感謝している。
- ・ 地元の鮎資源をフル活用したいという思いを汲んでいただき、地元とコミュニケーションをとって良い方法を模索していく必要がある。
- ・ 5年間この調査を続けていって欲しい。

飛騨市 国に対して判断していただくための材料、資料を作るために調査が必要である。

富山河川 川にはそれぞれ特性があるため、一つの考えとして維持流量の検討の手引きを参考に検討会において判断の検討を進めていくことが必要。基準を満たさないからダメであるとかということではない。

高橋先生 維持流量のガイドラインには、一定の基準を出しているが、地元の事情を尊重、考慮するすとう文言が入っていると確認した。

今回の報告書では、結果をまとめることはできない。5年間調査を積み重ねていく必要がある。まとめる指針の検討が必要であり、次回会議までの議題とし、それぞれ考えていただきたい。

まとめ

- ・ 今年度行った調査項目を基準として調査を進めて行く。
- ・ 必要であると認められた調査項目があればその都度判断して行く。
- ・ 地域住民の意見も集約しながら次回検討会に繋げていく。
- ・ 5年間調査を行い、結果をまとめる。

第4回打保・蟹寺発電所維持流量検討会

日時：令和7年1月27日（月） 午後2時～

場所：宮川振興事務所 2階会議室

1. 開会の言葉 飛騨市 宮川振興事務所 次長 清水 則久

2. あいさつ 飛騨市 基盤整備部長 森 英樹

3. 維持流量の検討について 司会・座長 高橋先生

(1) 打保・蟹寺発電所 刺し網期間中の河川環境調査結果について（漁協）

(2) 宮川の鮎による地域コミュニティーについて（宮川振興事務所）

(3) 今後の検討会について

(4) その他

4. 閉会の言葉 飛騨市 宮川振興事務所 次長 清水 則久

打保・蟹寺発電所 刺し網期間中の河川環境調査結果

令和7年1月27日

宮川下流漁業協同組合

目 次

第1章 調査目的

1 調査目的	3
--------	---

第2章 調査方法

1 調査区域	3
--------	---

(1) 打保区間	3
----------	---

(2) 蟹寺区間	4
----------	---

※維持流量放流状況

【打保ダム】

【蟹寺発電所取水堰堤】

2 調査地点	5
--------	---

3 調査期間	8
--------	---

4 調査項目	9
--------	---

(1) 放流量調査	9
-----------	---

(2) 水質調査	9
----------	---

(3) 水面・水深計測調査	9
---------------	---

(4) 魚類調査	10
----------	----

(5) 漁獲量調査	10
-----------	----

第3章 調査結果

(1) 放流量調査	12
-----------	----

(2) 水質調査	14
----------	----

(3) 水面・水深計測調査	16
---------------	----

ア 動植物の生息又は生育地の状況へ与える影響	17
------------------------	----

イ 景観・観光へ与える影響	19
---------------	----

(4) 魚類調査	24
----------	----

ア ウグイの資源動向	26
------------	----

(5) 漁獲量調査	27
-----------	----

ア 鮎の資源動向	
----------	--

イ 漁業の動向	28
---------	----

参考資料

参考資料①	打保ダムゲート放流量及び蟹寺発電所取水堰堤越流量……	30
参考資料②	各調査地点の河川断面……	32
参考資料③	過去の水質調査結果 ……	33
参考資料④	岐阜県公共用水域水質検査結果 ……	34
参考資料⑤	生息魚類一覧 ……	35

第1章 調査目的

1 調査目的

鮎の「刺し網漁」を操業するための、打保ダムおよび蟹寺発電所取水堰堤における維持流量抑制が河川環境に与える影響を検証することを目的とする。

第2章 調査方法

1 調査区域

調査区域は、宮川において打保ダムおよび蟹寺発電所取水堰堤の維持流量の影響を受ける、打保ダムから高原川合流までの約 23.4 kmの区間とした。さらに、この調査区域を打保ダムおよび蟹寺発電所取水堰堤の存在および維持流量の差をもって、以下の2区間を設定した。



(1) 打保区間(打保ダム～蟹寺発電所取水堰堤)

イワナ、ヤマメなどの溪流魚やアユの漁場として利用頻度が高い区間であるとともに、溪流魚やウグイなどの産卵場として利用されている。この区間には打保ダムからの維持流量に加え、三合谷、菅沼谷、塩屋大谷、打保谷などの支派川の流入があるが、伏流水が多く流量が不安定な区間である。また、この区間は沿川の道路との高低差が大きく、渓谷の景観を楽しむことができるが、入川の利便性は悪い。

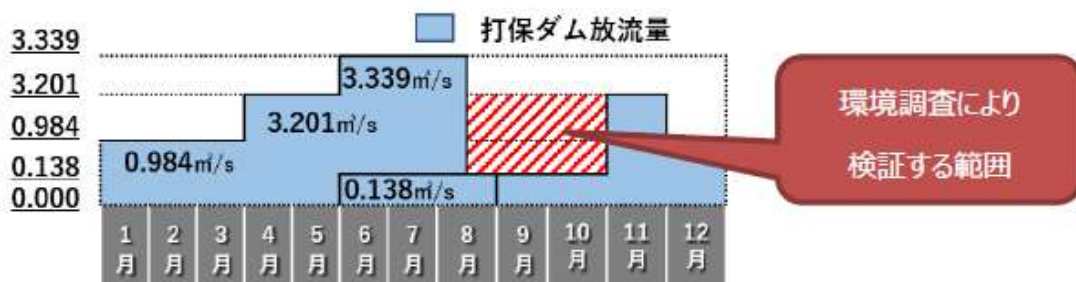
(2) 蟹寺区間(蟹寺発電所取水堰堤～高原川出会い)

アユ、溪流魚の漁場として利用頻度がとても高い漁業者にとって重要な区間であるとともに、溪流魚やウグイなどの産卵場としても利用されている。この区間には蟹寺発電所取水堰堤の維持流量に加え、大谷、洞谷、戸谷、桑谷などの支派川の流入があり、打保区間に比べ豊富な水量が維持される区間である。また、打保区間と比べ河川へのアクセスが容易であり、漁業者だけでなく河川と親しむイベントや学校教育などにも利用されることが多い区間である。

※維持流量放流状況

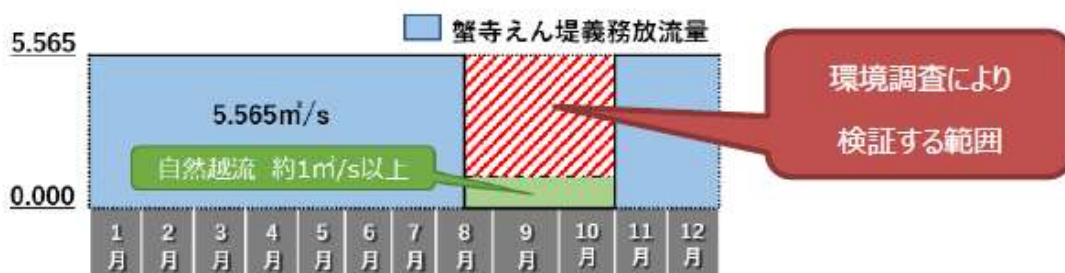
【打保ダム】

維持流量を4月1日から11月30日までは3.201 m³/s、12月1日から3月31日までが0.984 m³/sとするが、刺し網漁期間の8月20日から10月31日までは0.138 m³/sに抑制する。



【蟹寺発電所取水堰堤】

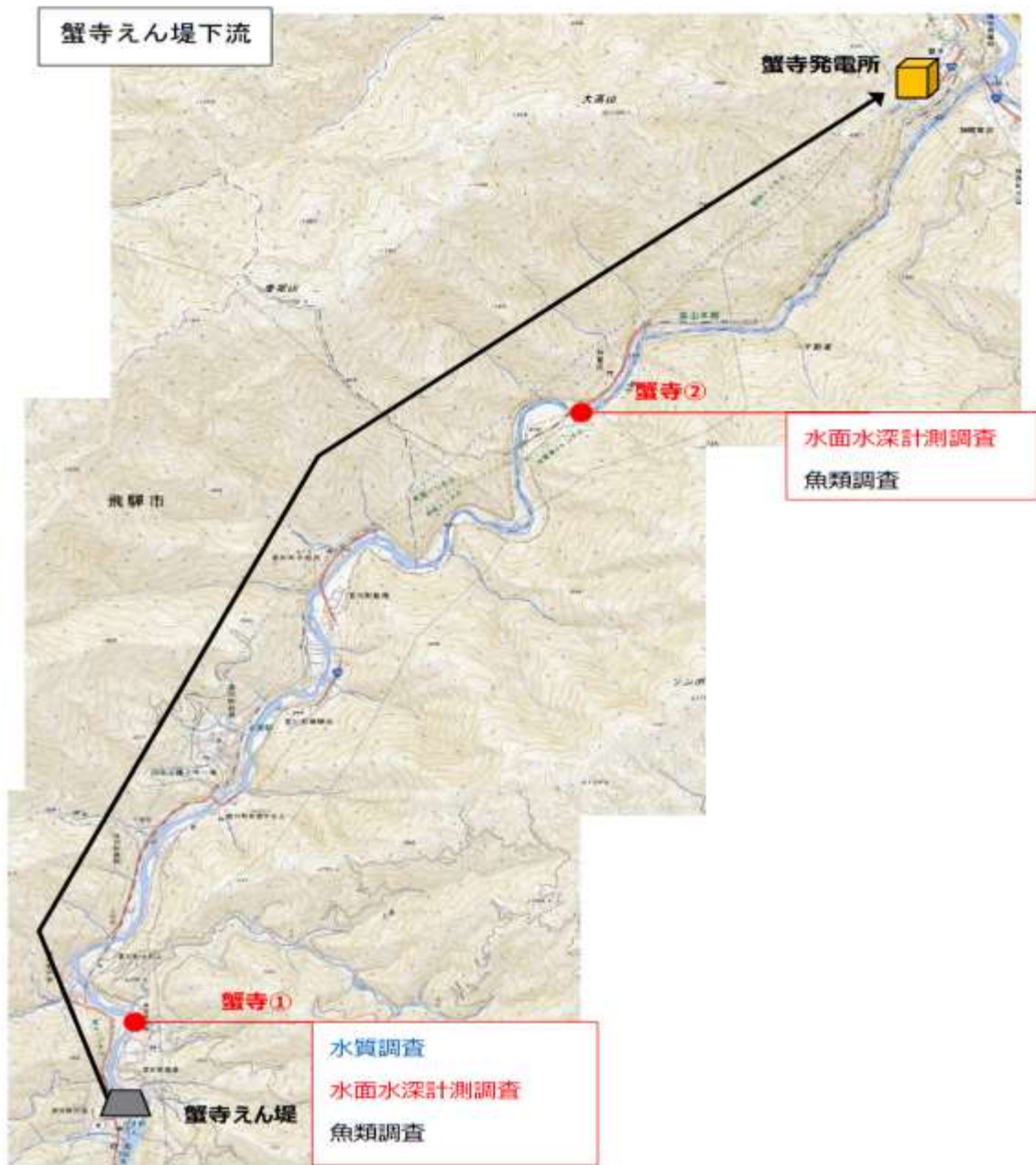
義務放流量を同年 5.565 m³/s とするが、刺し網漁期間は自然越流のみ(約 1 m³/s)とする。



2 調査地点

水質調査地点は調査区域ごとに1箇所、合計2箇所(位置図：打保①および蟹寺①)とした。水面水深計測調査および魚類調査地点は検証区間ごとに2箇所、合計4箇所とする(位置図：打保①・打保②・蟹寺①・蟹寺②)。





(位置図：打保①)



(位置図：打保②)



(位置図：蟹寺①)



(位置図：蟹寺②)



3 調査期間

令和6年6月1日から令和10年10月31日の5年間とする。維持流量の放水開始(令和5年5月29日)から1年間は河川環境の安定に必要な期間とした。

年間実施スケジュールについては以下の通り。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
現地踏査			■									
調査個所の選定			■									
環境調査	①放流量調査		■	■	■	■	■	■				
	②水質調査			■			■					
	③水面計測調査			■			■					
	④魚類調査			■			■					
調査内容の整理								■	■			
調査結果分析・照査									■	■	■	
調査報告書作成										■	■	■

令和6年の調査の実施日は以下のとおり。

【6月調査】

6月5日 水質調査

6月10日 水面・水深計測調査および魚類調査

【10月調査】

10月2日 水質調査、水面・水深計測調査および魚類調査

4 調査項目

調査項目は①放流量調査、②水質調査、③水面・水深計測調査、④魚類調査の5項目とした。項目別の調査方法は以下のとおり。

(1) 放流量調査

維持流量の放水状況のほか、降雨などによる宮川の水量の変化を把握するために放流量調査を行った。調査には関西電力株式会社の打保ダムおよび蟹寺発電所取水堰堤の運用記録を用いた。

(2) 水質調査

維持流量抑制が水質に与える影響を把握するために水質調査を行った。

本調査は、宮川下流漁業協同組合による独自調査の発注先として実績のある(株)フィルテックに委託した。

調査地点は、検証区間ごとに1箇所、合計2箇所とし、水面・水深計測調査および魚類調査の調査地点と同一地点とした。地点の選定については、生活排水、農業排水、谷川の流入が少なく水質が安定している地点とし、打保区間では打保①、蟹寺区間では蟹寺①とした。蟹寺①は宮川下流漁業協同組合による独自調査地点であり、過去のデータとの比較を可能とした。

調査時期は宮川が通常流量であった6月5日および10月2日(飛騨保健所の水質調査日と同日とした。)に行った。通常流量の判断は飛騨保健所の水質調査の実施の判断を参考とした。

水質調査項目は、水産資源への影響を評価するため、環境省が水産用水の環境基準として用いる項目を満たすpH、BOD、COD、SS、DO、大腸菌群数、総窒素、総リンの8項目とした。ただし、有害物質については、過去の環境白書のデータから、宮川では検出されていないため除いた。

(3) 水面・水深計測調査

維持流量抑制が水深、流速、流量に与える影響を把握するために水面水深計測調査を行った。本調査は宮川下流漁業協同組合が行った。従事者は宮川下流漁業協同組合および共有漁場会で8名(2回の調査で延べ16名)を指定した。

調査地点は、検証区間ごとに2箇所、合計4箇所とし、水質調査および魚類調査の調査地点と同一地点とした。地点の選定については、各区間の代表地点とし、打保区間では打保①、打保②、蟹寺区間では蟹寺①、蟹寺②とした。

調査時期は宮川が平水であった6月10日および10月2日に行った(平水時とは打保ダムの放水量が維持流量のみである時を指す。)

日程は水質調査および魚類調査と合わせるものとした。但し6月の調査に

において水質調査は別日とした。

調査項目は、魚種別必要水利条件を検証する上で必要となる水面幅および水深、流速(流速計はコスモ理研社 CR-11 型を使用する。)とした。

測定測線は調査地点ごとに1本設定した。

水面・水深調査方法は全国内水面漁業協同組合連合会が作成した「魚を育む豊かな流れ～河川生物資源保全流量調査報告書～」(添付資料1・2)に準じた。

その他、維持流量抑制が景観に与える影響を把握するために、調査地点を眺望する写真を撮影した。撮影地点は、「正常流量検討の手引き(案)」記載の「みかけの水面幅と河川幅による評価基準の研究成果」を参考とし、調査地点を眺望することができるとともに人目に付きやすい場所として、公道の橋梁上またはカーブとした。

(4) 魚類調査

維持流量抑制が動植物の生息地又は生育地の状況に与える影響について、その代表生物としての魚類への影響を把握するために魚類調査を行った。

本調査は宮川下流漁業協同組合が行った。従事者は宮川下流漁業協同組合および共有漁場会で8名(2回の調査で延べ16名)指定した。

調査地点は、検証区間ごとに2箇所、合計4箇所とし、水質調査および水面計測調査の調査地点と同一地点とした。地点の選定については、各区間の代表地点とし、打保区間では打保①、打保②、蟹寺区間では蟹寺①、蟹寺②とした。

調査時期は宮川が平水であった6月10日および10月2日行った(平水時とは打保ダムの放水量が維持流量のみである時を指す。)

日程は水質調査および水面・水深計測調査と合わせるものとした。但し6月の調査において水質調査は別日とした。

調査方法はエレクトロフィッシャー(スミスルート社 LR-20B 型を使用した。)を用いた捕獲調査とした。1箇所あたり15分の調査を行い、捕獲した魚類の魚種を判別、計数するとともに、全ての個体の全長、体重を測定した。捕獲した魚類は調査後、放流した。

その他、捕獲が困難なアユや溪流魚については、以下に示す漁獲量調査の結果を参考とした。

(5) 漁獲量調査

維持流量抑制が漁業に与える影響について、漁業者数及び漁獲量調査を行った。

本調査は宮川下流漁業協同組合が行った。

調査方法は全組合員に対して調査用紙を配布し記入を求めることで、全組

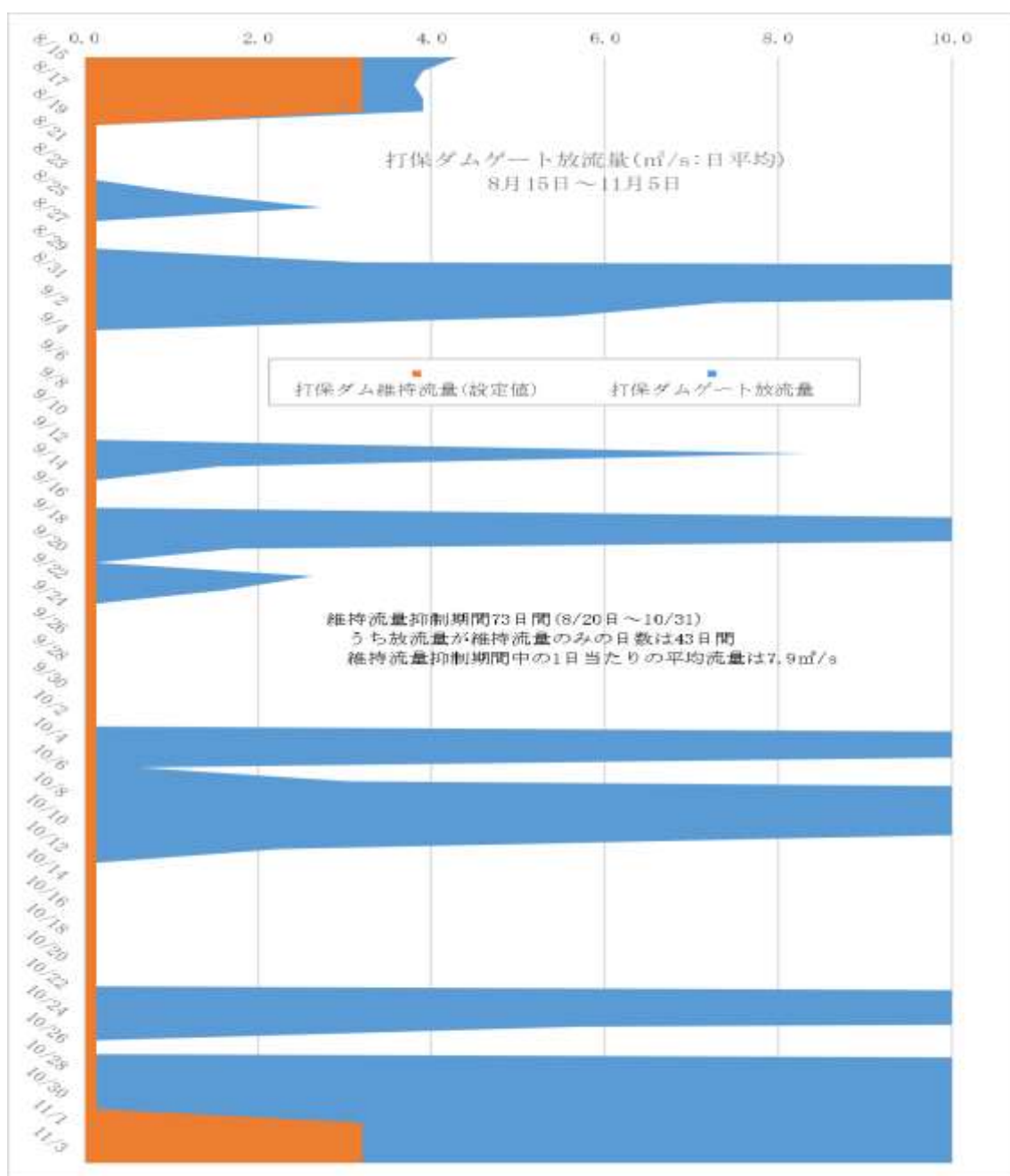
合員の出漁日ごとの魚種別漁獲量および組合員の漁業者数を調査した。また、漁場監視員の監視報告書および「季節および利用者目的別の河川利用者数(関西電力株式会社庄川水力センター)」から遊漁者数を推定した

第3章 調査結果

(1) 放流量調査

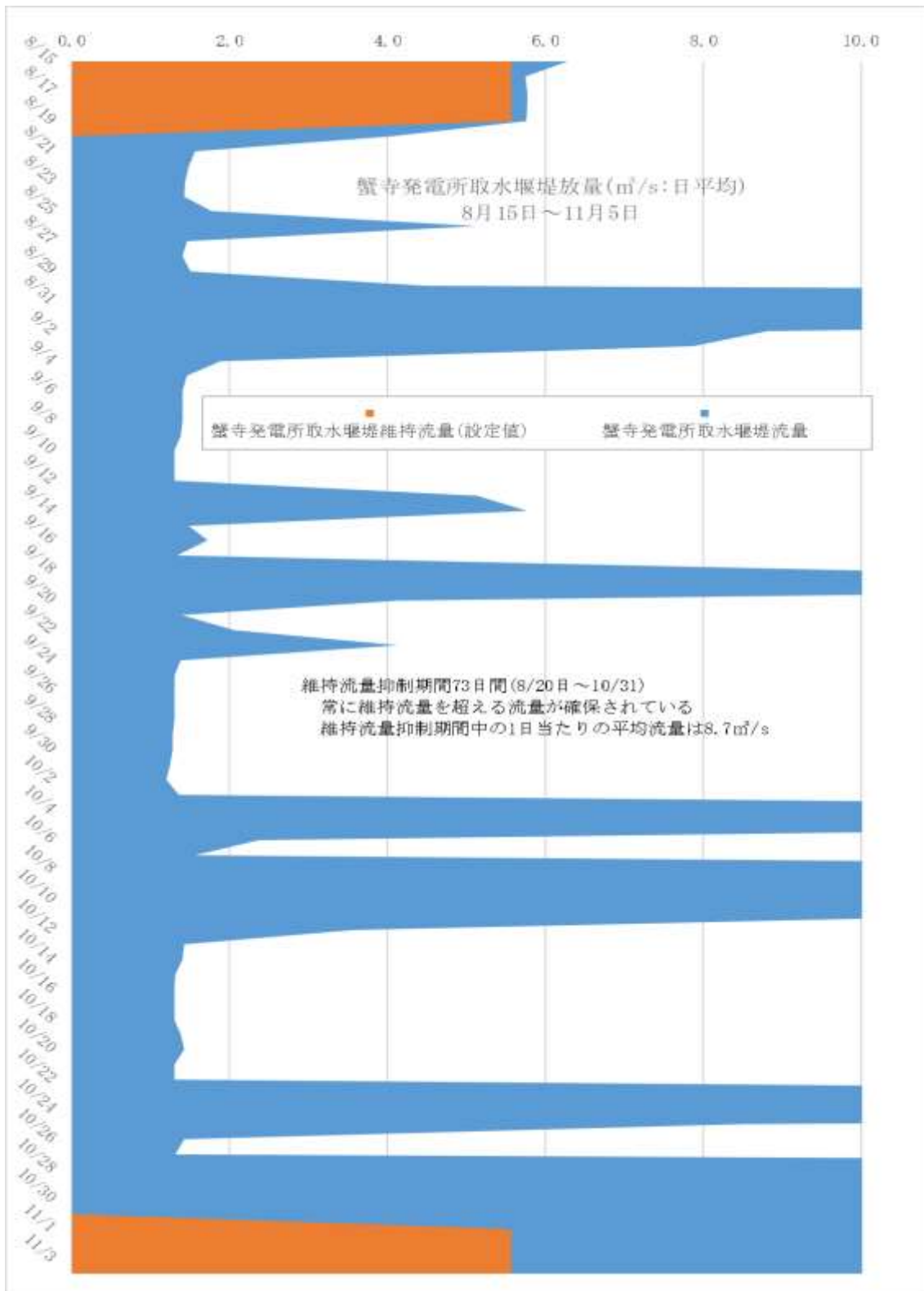
関西電力株式会社の打保ダムおよび蟹寺発電所取水堰堤の運用記録を用いて維持流量の放流状況のほか、降雨などによる宮川の水量の変化を把握した。

ア 維持流量抑制期間前後の打保ダムゲート放水量の変化は以下のとおり。



※打保ダムゲート放流量には菅沼開発水路用水 0.138 m³/s を含む。

イ 維持流量抑制期間前後の蟹寺発電所取水堰堤流量の変化は以下のとおり。



※蟹寺発電所取水堰堤流量は、堰堤越流量が少ない場合でも堰堤中央部の流水路の放流量も含め約 1 m³/s の放流がされている。

(2) 水質調査

水質調査の結果および水質に係る環境基準については以下のとおり。

水質検査結果および水質に係る環境基準

項目	単位	打保①		蟹寺①		生活環境の保全に関する環境基準(河川) 類型:A 水道2級・水産1級 (環境省)	水産用水基準(河川) (公益社団法人 日本水資源保護協会)
		6月	10月	6月	10月		
打保ダム放水量	m ³ /s	12.0	0.3	12.0	0.3		
透明度		中	高	中	高		
水温	°C	14.0	16.0	17.0	20.0		
pH (水素イオン濃度)		8.0	8.6	7.9	8.7	6.5以上8.5以下	6.7～7.5
BOD (生物化学的酸素要求量)	mg/l	0.5未満	0.6	0.5未満	1.0	2 mg/l以下	自然繁殖条件:3mg/l以下 ただし、サケ・マス・アユ:2mg/l以下 成育の条件:5mg/l以下 ただし、サケ・マス・アユ:3mg/l以下
COD (化学的酸素要求量)	mg/l	1.4	1.0	1	1.5	25mg/l以下	
SS (浮遊物質)	mg/l	1	1	1	1	25mg/l以下	一般:25mg/l以下・人為的:5mg/l以下 忌避行動などの反応を起こさせる原因とならないこと。 日光の透過を妨げ、水生植物の繁殖、生長に影響を及ぼさないこと。
T-N (全窒素)	mg/l	0.30	0.15	0.48	0.15	特になし	特になし
T-P (全リン)	mg/l	0.021	0.013	0.030	0.012	特になし	特になし
大腸菌数	CFU/100ml	6	52	4	38	300CFU/100ml以下 R4以前:1,000MPN/100ml以下	一般:1,000MPN/100ml以下
DO (溶存酸素量)	mg/l	10	11	10	11	7.5mg/l以上	一般:6mg/l以上 サケ・マス・アユ:7mg/L以上

維持流量抑制時において、各調査地点における水質はおおむね環境省が示す生活環境の保全に関する環境基準の A 類型および水産 1 級に相当し、河川上流部の貧栄養水域に生息する魚類にとって適した水質である。

但し pH が高値であることについては、過去の水質調査の結果(参考資料③)から宮川の特徴であると考えられ、特に魚類等への生息に影響を与えるものではないと考えられる。



6/5 水質調査の様子(打保①)



6/5 水質調査時の宮川の様子(蟹寺①)

ア 動植物の生息又は生育地の状況へ与える影響

水面・水深計測調査の結果から維持流量の抑制が動植物の生息又は生育地の状況へ与える影響を以下に示す。

魚種別必要水理条件と調査地点別水理条件比較一覧

魚種名	河川区分と魚種別必要水理条件(移動および産卵)																		実測値と魚種別必要水理条件の比較結果			
	打保①						打保②						蟹寺区間									
	10月			6月			10月			6月			10月			6月				10月		
	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s	水深 cm	流速 cm/s				
実測値 (平均)	45	44	24	19	22	69	27	36	35	56	19	43	27	86	16	58						
ウナギ (放流)	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10			
イワナ	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15			
ヤマメ																						
アユ (放流)	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15			
オイカワ	5	10	10	10	5	10	10	10	5	10	10	10	5	10	10	10	10	10	10			
ウグイ	30	30	15	30	30	30	15	15	30	30	30	15	30	30	30	15	15	15	15			
アジメ ドジョウ								10				10				10						
カジカ	10	20	10	20	10	20	10	10	10	20	20	10	10	20	20	10	20	20	10			
カワ ヨシノボリ	10	20	10	20	10	20	10	10	10	20	20	10	10	20	20	10	20	20	10			

■ 調査地点の一部において水理条件を満たす
 ■ 調査地点全域において水理条件を満たさない
 □ 水理条件の設定がない

代表種としては河川流量に関わりの強い魚類とする。その中でも特に水産上
有用であり広く知見の得られやすい漁業権魚種は、河川流量の影響を受けやす
い瀬を主な生息場所あるいは産卵場所として利用している魚種が多い。よって
代表種としてウナギ、イワナ、ヤマメ、アユ、オイカワ、ウグイ、アジメドジ
ョウ、カジカ、ヨシノボリ(コイおよびニジマスは漁業権魚種であるが外来魚
のため対象としない。)の9種を挙げる。また、代表種に必要とされる水理条
件は「正常流量検討の手引き(案)」記載の「魚種別の必要水利条件の参考例」
を参考とした。

令和6年の結果として、ほぼすべての調査地点における流速、水深の平均値
は各魚種に必要とされる水理条件を満たしている。また、一部のヤマメおよび
ウグイの産卵に必要とされる条件を満たさない調査地点についても、測定測線
の13~40%の幅では条件を満たしている。



水面・水深計測調査の様子(打保①)

イ 景観・観光へ与える影響

維持流量抑制が景観に与える影響について、評価基準である水量感(見かけ水面幅(W)と見かけの河川幅(B)の比(W/B))について各調査地点の値は以下のとおり。

景観・観光に関する結果まとめ

調査地点	月	見かけの河川幅(B)	見かけの水面幅(W)	W/B	6月と10月の景観の比較
打保①	6月	6.13	1.57	0.26	6月に比べて10月の見かけの水面幅は約15%減少しW/B値が低下しているが、両月とも0.2を満たしており水量感についてはおおむね満足であると考えられる。
	10月	6.42	1.34	0.21	
打保②	6月	11.62	3.8	0.33	6月に比べて10月の見かけの水面幅の変動は少なく両月とも0.2を満たしており水量感についてはおおむね満足であると考えられる。
	10月	11.47	3.56	0.31	
蟹寺①	6月	4.96	1.47	0.3	6月に比べて10月の見かけの水面幅が40%以上減少しW/B値も大きく低下しているが、両月とも0.2を満たしており水量感についてはおおむね満足であると考えられる。
	10月	3.81	0.85	0.22	
蟹寺②	6月	9.18	5.2	0.57	6月に比べて10月の見かけの水面幅の変動は少なく両月とも0.2を大きく超えており、水量感については満足できるものと考えられる。
	10月	9.72	4.98	0.51	

全ての調査地点において W/B は 0.2 を満たしており、水量感についてはおおむね満足であると考えられる。

※ 既往研究では、水量感とは河川中流部での評価基準の一つである。見かけ水面幅(W)と見かけの河川幅(B)の比(W/B)が 0.2 以上の場合、心理的に水量感に関する不満がほぼなくなるという傾向が認められており、本結果を参考とする。

以下に各調査地点の水量感の設定例を示す。

打保①

6月	見かけの河川幅(B)	6.13	実際の河川幅	87
	見かけの水面幅(W)	1.57	実際の水面幅	46.5
	W/B	0.26	実際のW/B	0.53



10月	見かけの河川幅(B)	6.42	実際の河川幅	87
	見かけの水面幅(W)	1.34	実際の水面幅	43
	W/B	0.21	実際のW/B	0.49



水面計測調査の測線を含めた写真を新三川原橋から撮影し、その調査測線をもって水量感を計測した。

打保②

6月	見かけの河川幅(B)	11.62	実際の河川幅	91
	見かけの水面幅(W)	3.80	実際の水面幅	30
	W/B	0.33	実際のW/B	0.33



10月	見かけの河川幅(B)	11.47	実際の河川幅	91
	見かけの水面幅(W)	3.56	実際の水面幅	22
	W/B	0.31	実際のW/B	0.24



水面調査地点を含み、かつ河川全域を俯瞰できる地点として、宮川町打保地内の成手スノーシェッド北端から写真を撮影し、一般的に俯瞰者の視線が向くと思われる中心付近をもって水量感を計測した。

蟹寺①

6月	見かけの河川幅(B)	4.96	実際の河川幅	169
	見かけの水面幅(W)	1.47	実際の水面幅	42
	W/B	0.30	実際のW/B	0.25



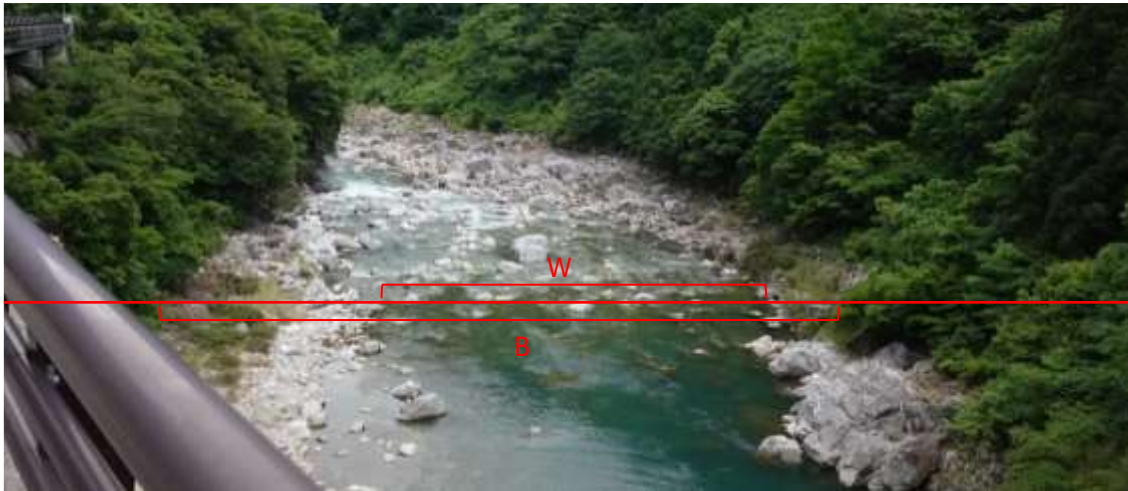
10月	見かけの河川幅(B)	3.81	実際の河川幅	169
	見かけの水面幅(W)	0.85	実際の水面幅	34
	W/B	0.22	実際のW/B	0.20



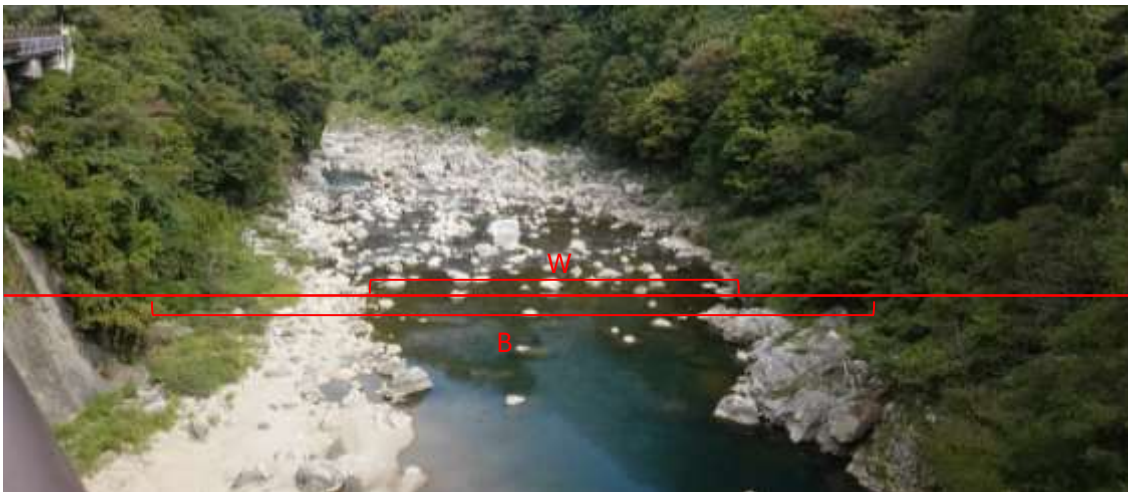
水面計測調査の測線を含めた写真を平成橋から撮影し、その調査測線をもって水量感を計測した。

蟹寺②

6月	見かけの河川幅(B)	9.18	実際の河川幅	99
	見かけの水面幅(W)	5.20	実際の水面幅	45
	W/B	0.57	実際のW/B	0.45



10月	見かけの河川幅(B)	9.72	実際の河川幅	99
	見かけの水面幅(W)	4.98	実際の水面幅	44.8
	W/B	0.51	実際のW/B	0.45



水面計測調査の測線を含めた写真を加賀沢橋から撮影し、その調査測線をも
って水量感を計測した。

(4) 魚類調査

魚種別捕獲数を以下に示す。

魚種別捕獲数

魚種名	捕獲数(尾)								摘要
	打保区間				蟹寺区間				
	打保①		打保②		蟹寺①		蟹寺②		
	6月	10月	6月	10月	6月	10月	6月	10月	
ウナギ(放流)									各地点ごとの調査時間は15分間とした
イワナ		1							
ヤマメ									
アユ(放流)	2			2					
オイカワ				9					
ウグイ	15	145	24	121	10	83	2	33	
アジメドジョウ									
カジカ									
カワヨシノボリ		2		4		4		9	

令和6年の結果として、すべての調査地点においてウグイを捕獲することができた。捕獲数は維持流量抑制期間である10月が多い。ただし、資源量の動向の評価については、今後5年間の調査の結果の比較をもって行う。



エレクトロフィッシャーを用いた魚類生息調査の様子(蟹寺②)



捕獲した魚類の多くはウグイが占める(蟹寺①)



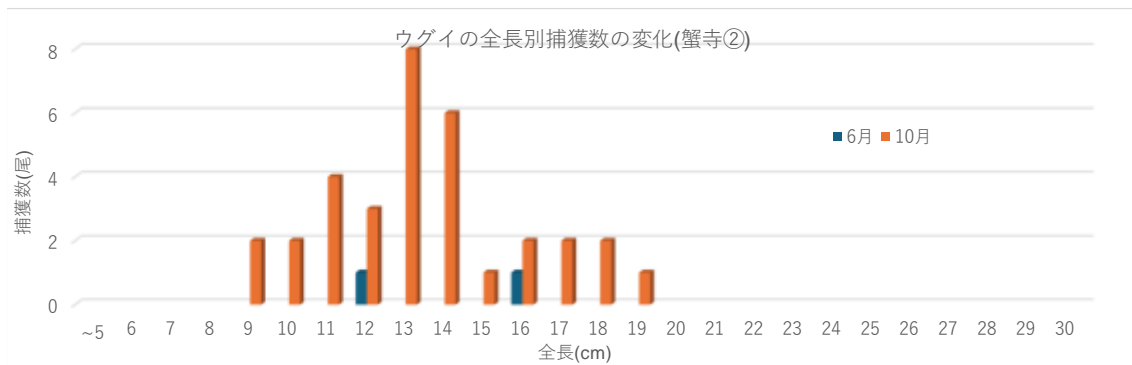
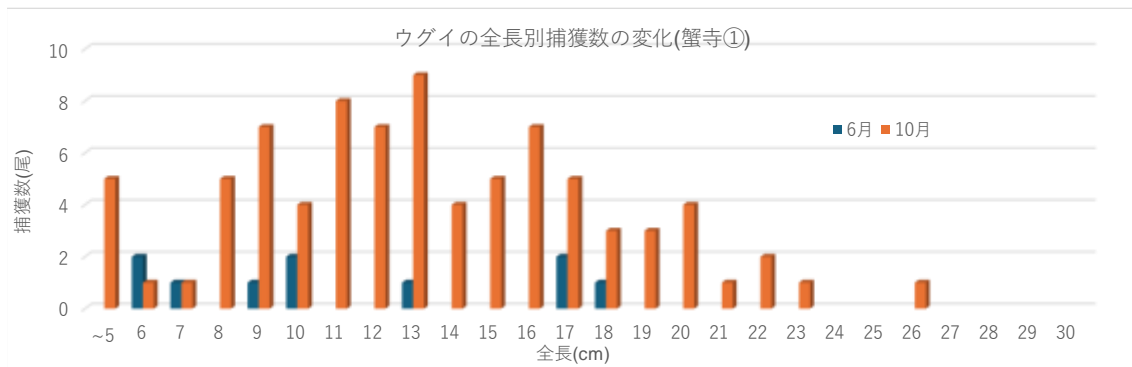
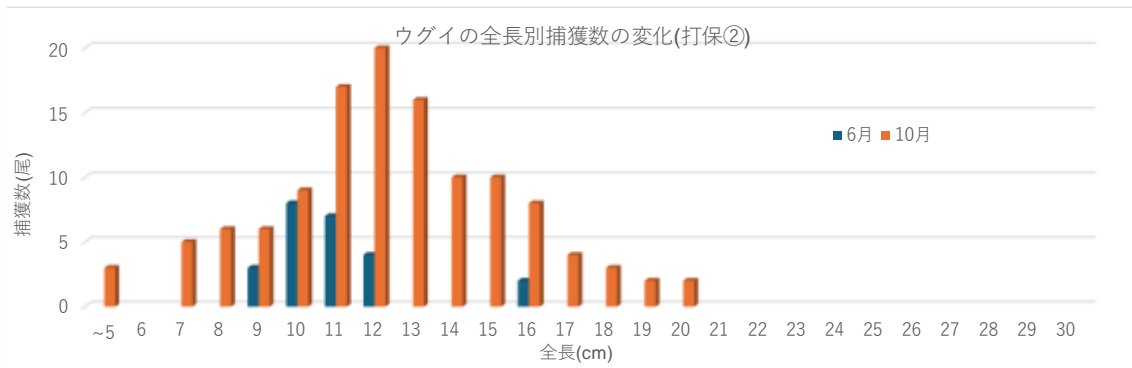
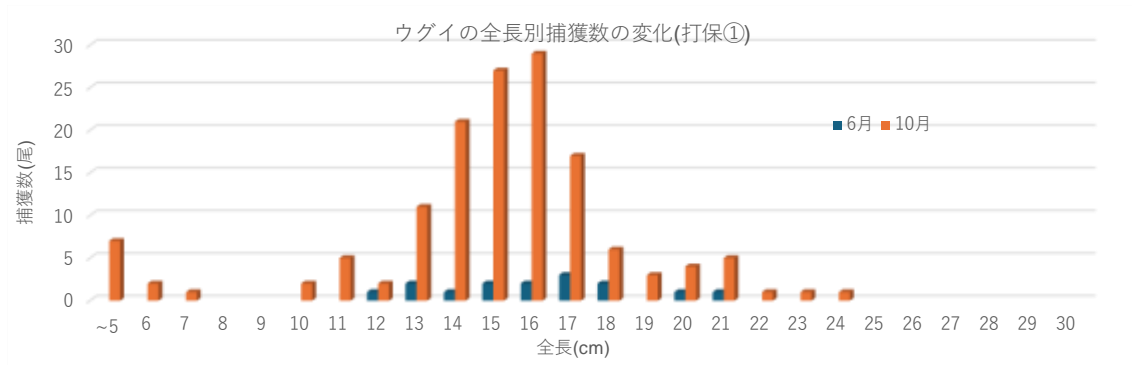
捕獲した魚類の測定の様子(打保①)



捕獲した鮎(打保②)

ア ウグイの資源動向

ウグイについてはすべての調査地点で多くの個体を確認できたことから、資源量の動向の指標として適していると考えられる。以下に令和6年の魚類調査における各調査地点で捕獲したウグイの体長組成を示す。



(5) 漁獲量調査

ア アユの資源動向

宮川のアユ資源は全て漁業協同組合の放流事業に依存しているため、放流条件が同一である場合、その資源量の動向は維持流量抑制などの河川環境の影響の指標として適していると考えられる。しかし、アユは遊泳能力が高くエレクトロフィッシャーや投網などで安定して捕獲することができず、その資源量を把握することが困難である。そこで、アユ資源の動向の指標として、アユ漁獲量および漁業者の動向を用いる。以下に令和6年の漁獲量(友釣りの漁獲効率)および漁業者の動向(調査区間別漁業者数)を示す。

漁業者数およびアユ平均漁獲量

項目	打保区間		蟹寺区間 (共有漁場区間除く)		合計	摘要
	維持流量 抑制期間	その他 の期間	維持流量 抑制期間	その他 の期間		
刺し網漁可能日数 <small>維持流量のみ(放水量1t/s未満)の日数</small>	44	-	45	-	-	データは関西電力河川 巡視報告を使用
友釣り可能日数 <small>放水量が70m/s以下(日平均)の日数</small>	73	46	73	46	-	
漁業 従事者数	刺し網 <small>(統:1統4人)</small>	0	104	0	161	データは宮川下流漁協 漁獲量調査結果を使用
	友釣り <small>(人)</small>	39	9	74	126	
	投網 <small>(人)</small>	4	6	2	21	
平均 漁獲量	刺し網 <small>(1統当り:尾)</small>	-	87	-	85	
	友釣り <small>(1人当り:尾)</small>	33	19	22	25	
	投網 <small>(2人当り:尾)</small>	53	58	25	50	
遊漁者数	友釣り <small>(人)</small>	1108	1058	4588	6921	データは関西電力河川 巡視報告を使用

資源量の動向の評価については、今後5年間の調査の結果の比較をもって行う。

イ 漁業の動向

維持流量抑制が漁業へ与える影響について、令和6年の漁業者数および漁獲量の動向を以下に示す。

令和6年宮川下流漁業協同組合組合員漁獲量調査結果

魚種	漁法	区分	打保区間			蟹寺区間			合計
			維持流量抑制期間	その他の期間	小計	維持流量抑制期間	その他の期間	小計	
ウナギ	報告なし								
イワナ	釣り	人数(人)	0	6	6	0	4	4	10
		漁獲量(尾)		41	41		27	27	68
		1人当たり漁獲量		6.8	6.8		6.8	6.8	6.8
ヤマメ	釣り	人数(人)	0	1	1	0	3	3	4
		漁獲量(尾)		15	15		23	23	38
		1人当たり漁獲量		15.0	15.0		7.7	7.7	9.5
アユ	刺し網	統数(1統4名)	57	0	57	104	0	104	161
		漁獲量(尾)	4522		4522	9077		9077	13599
		1統当たり漁獲量	79.3		79.3	87.3		87.3	84.5
	友釣り	人数(人)	4	39	43	9	74	83	126
		漁獲量(尾)	87	1276	1363	172	1622	1794	3157
		1人当たり漁獲量	21.8	32.7	31.7	19.1	21.9	21.6	25.1
	投網	人数(人)	9	4	13	6	2	8	21
		漁獲量(尾)	639	210	849	346	50	396	1245
		1人当たり漁獲量	71.0	52.5	65.3	57.7	25.0	49.5	59.3
オイカワ	報告なし								
ウグイ	釣り	人数(人)	0	2	2	0	0	0	2
		漁獲量(尾)		25	25				25
		1人当たり漁獲量		12.5	12.5				12.5
アジメ ドジョウ	報告なし								
カジカ	報告なし								
カワ ヨシノボリ	報告なし								



10月の刺し網漁の様子(打保区間)

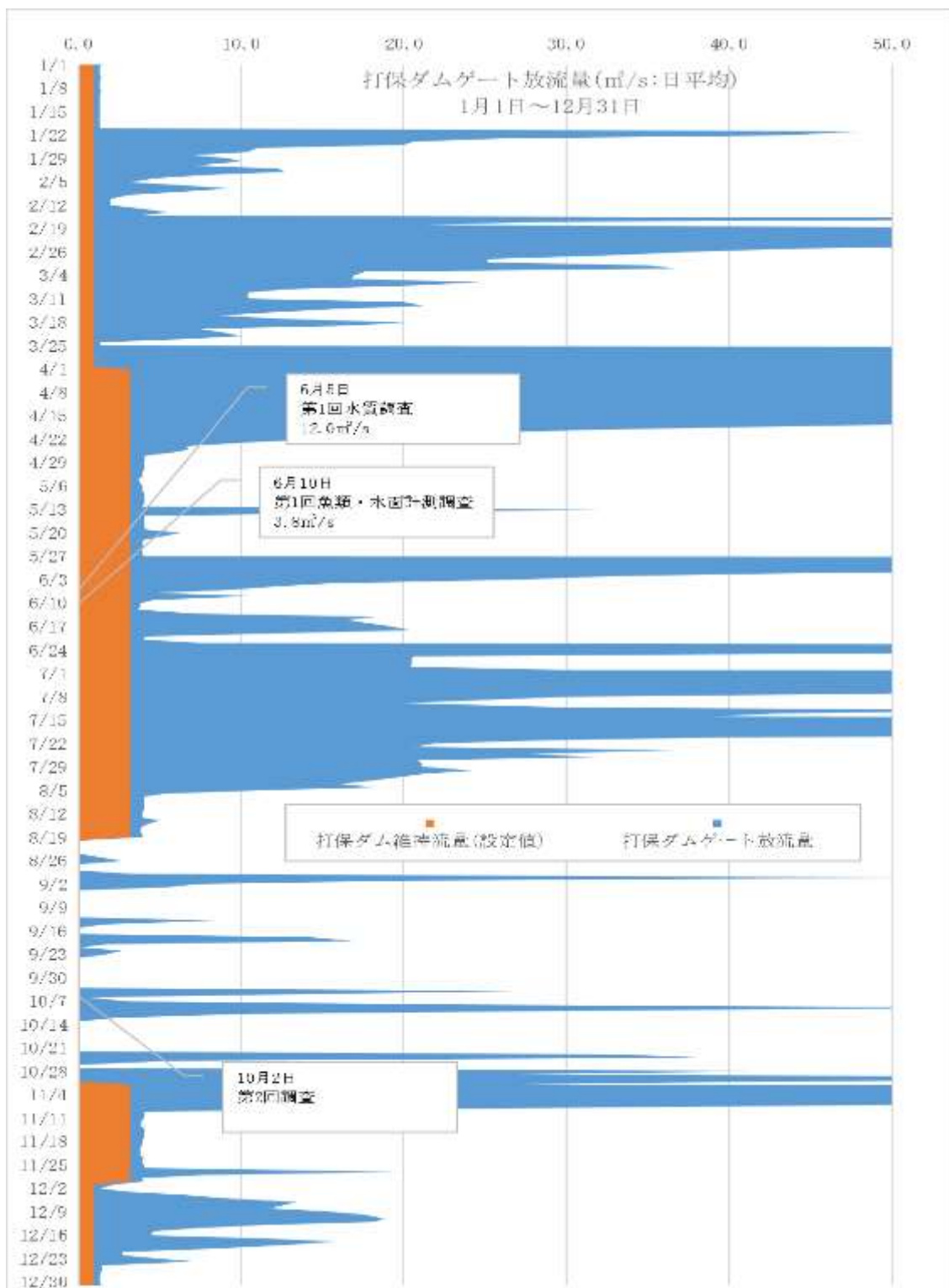


8月の友釣りの様子(蟹寺区間)

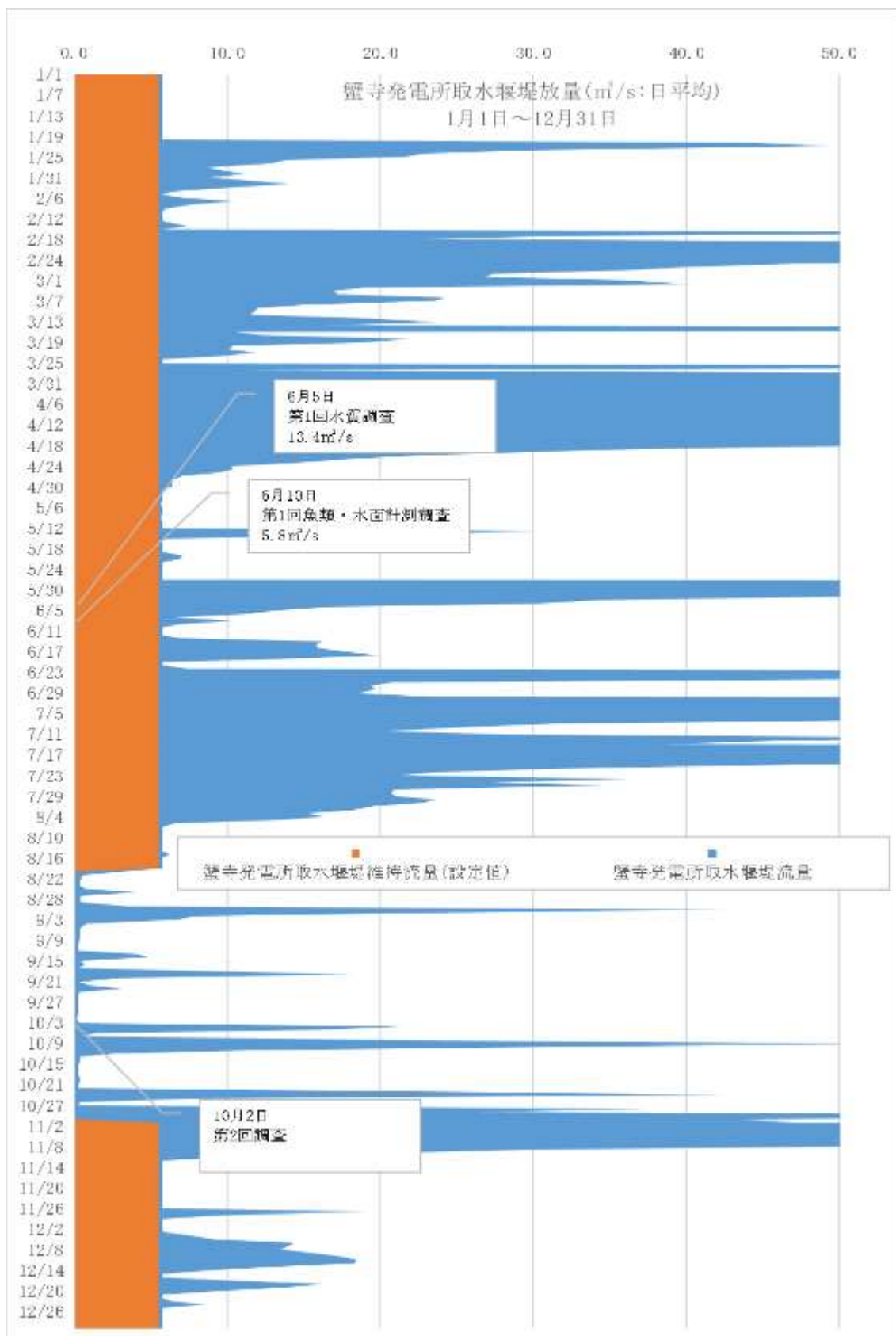
参考資料①

令和 6 年の維持流量および維持流量以外の降雨等による宮川の流量の変化の参考として、打保ダムゲート及び蟹寺発電所取水堰堤越流量を以下に示す。

【打保ダムゲート放流量】

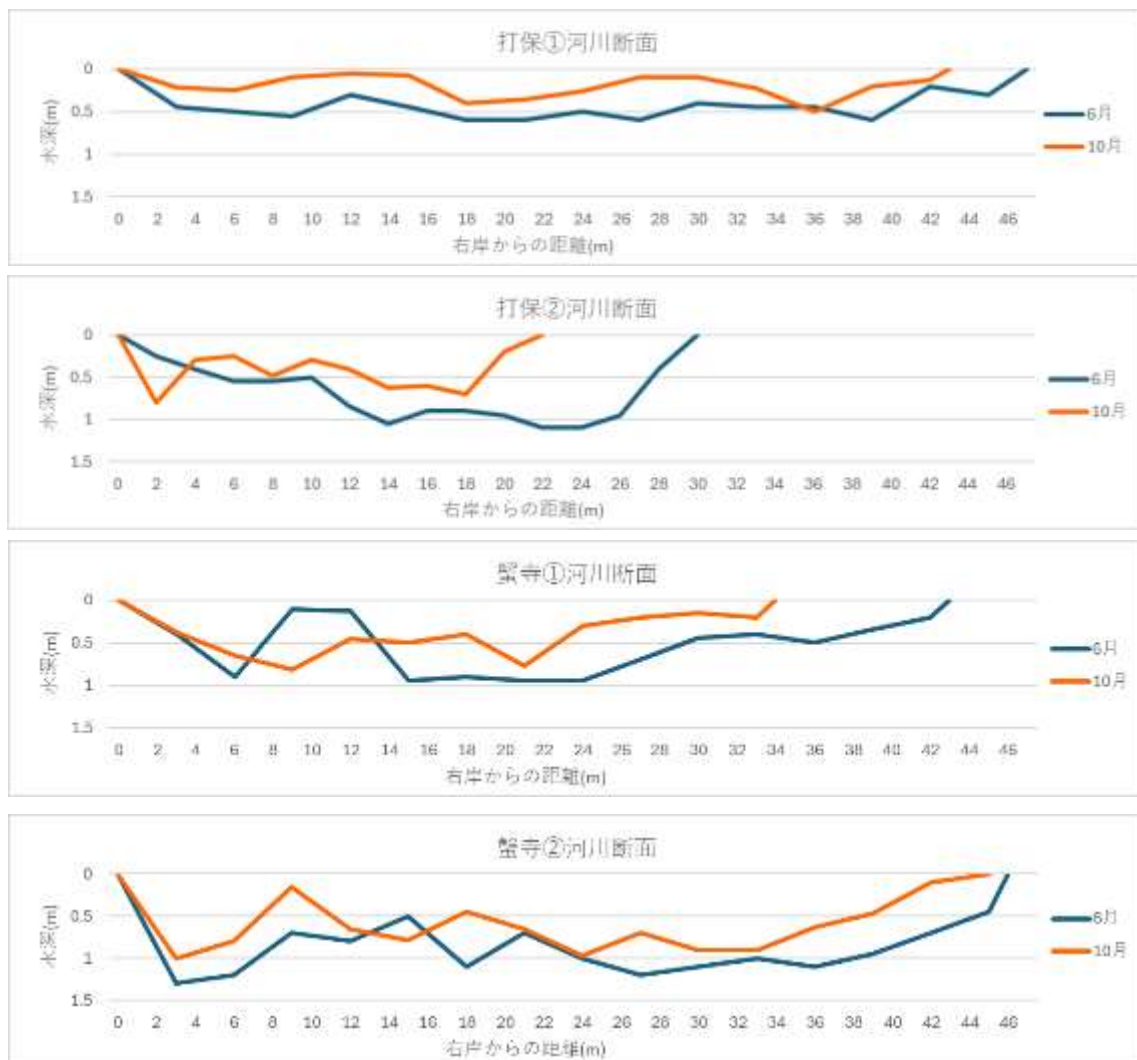


【蟹寺発電所取水堰堤越流量】



参考資料②

令和6年水面計測調査の結果から、各調査地点の河川断面を以下に示す。



参考資料③

宮川下流漁業協同組合が実施した過去の水質調査結果について以下に示す。

水質調査結果(坂上発電所下流・打保①:巢之内・蟹寺①:平成橋下流) 調査委託先:株式会社フィルテック

場所	日付			放水状況	水温 (℃)	pH	DO (ppm)	BOD (ppm)	COD (ppm)	SS (ppm)	窒素 (mg/l)	リン (mg/l)	大腸菌群 (MPN/100ml) ※B42/確CRU/100ml	
	年	月	日											
坂上 発電所	2007	6	6	通常放水	17.0	8.2	9.4	0.8	1.7	4.0	0.62	0.051	7900	
	2007	10	10	通常放水	15.0	7.7	10.0	1.3	2.2	4.0	0.60	0.046	33000	
	2008	6	4	通常放水	15.0	7.9	12.0	1.1	1.7	3.0	1.20	0.031	11000	
	2008	9	29	通常放水	13.0	7.8	9.7	0.8	1.1	4.0	0.56	0.043	11000	
	2009	6	10	通常放水	15.0	8.1	9.7	0.7	2.0	3.0	0.59	0.047	2200	
	2009	10	14	通常放水	15.0	7.8	10.0	0.8	1.3	1.0	0.55	0.037	11000	
	2010	6	22	通常放水	20.0	8.6	11.0	0.5	1.7	2.0	0.48	0.038	27000	
	2010	10	13	通常放水	17.0	7.6	9.8	0.7	1.6	3.0	0.56	0.028	14000	
	2011	6	8	通常放水	18.0	7.8	9.8	0.5	1.4	2.0	0.51	0.032	2200	
	2011	10	12	通常放水	15.0	8.2	10.0	0.5	1.1	1.0	0.45	0.028	2200	
	2012	6	6	通常放水	19.0	8.8	12.0	1.0	2.0	2.0	0.61	0.043	4900	
	2012	10	10	通常放水	14.0	8.3	9.4	0.6	1.6	1.0	0.59	0.040	13000	
	2013	6	5	通常放水	19.0	8.3	9.8	0.9	2.1	3.0	0.59	0.046	2400	
	2013	10	2	通常放水	19.0	8.2	9.2	0.5未満	1.3	2.0	0.45	0.034	2200	
	2014	6	4	通常放水	18.0	8.4	8.9	0.6	1.8	2.0	0.60	0.048	13000	
	2014	10	1	通常放水	14.0	8.9	11.0	0.5	1.5	1未満	0.37	0.029	14000	
	2015	6	3	通常放水	19.0	8.3	9.6	0.5未満	1.8	1.0	0.50	0.037	17000	
	2015	10	14	通常放水	15.0	7.6	11.0	0.5	1.5	4.0	0.51	0.039	13000	
	2016	6	1	通常放水	17.0	7.7	9.4	0.5未満	2.2	2.0	0.54	0.049	4900	
	2016	10	12	通常放水	13.0	7.2	11.0	0.5未満	1.1	1.0	0.46	0.032	11000	
	2017	6	7	通常放水	16.0	8.4	10.0	1.1	1.5	1.0	0.51	0.051	4900	
	2017	10	11	通常放水	16.0	8.2	9.3	0.5未満	1.5	2.0	0.46	0.044	7900	
	2018	6	6	通常放水	13.0	7.8	10.0	0.9	1.7	1.0	0.50	0.040	1100	
	2018	10	10	通常放水	15.0	7.7	10.0	0.5未満	0.9	1未満	0.35	0.027	500	
	2019	6	5	通常放水	14.0	8.0	11.0	0.5未満	1.6	1	0.33	0.021	1800	
	2019	10	2	通常放水	19.0	7.8	9.0	0.7	2.0	1	0.48	0.038	13000	
	2020	新型コロナウイルス感染症の拡大防止ため調査未実施												
	2021	6	2	通常放水	18.0	8.2	11.0	0.5未満	1.4	5	0.44	0.033	700	
	2021	10	6	通常放水	17.0	8.9	11.0	0.9	1.7	5	0.44	0.051	17000	
	2022	6	1	通常放水	17.0	8.4	10.0	1.1	1.5	2	0.61	0.046	36	
2022	10	12	通常放水	13.0	7.6	11.0	0.5未満	1.4	2	0.40	0.027	980		
2023	6	7	通常放水	14.0	7.9	11.0	0.6	1.3	4	0.51	0.034	39		
2023	10	11	通常放水	16.0	7.9	9.8	0.6	2.1	2	0.62	0.038	180		
2024	6	5	通常放水	16.0	7.8	9.9	0.5未満	1.3	2	0.54	0.037	30		
2024	10	2	通常放水	20.0	8.6	9.9	0.5未満	1.5	1	0.48	0.049	60		
打保 ①	2024	6	5	12 ml/日	14.0	8.0	10.0	0.5未満	1.4	1	0.30	0.021	6	
	2024	10	2	0 ml/日	16.0	8.6	11.0	0.6	1.0	1	0.15	0.013	52	
蟹寺 ①	2007	6	6	0 ml/日	16.0	8.3	9.8	0.7	1.1	1以下	0.26	0.024	2300	
	2007	10	10	10 ml/日	15.0	8.0	10.0	1.1	2.4	3.0	0.56	0.044	11000	
	2008	6	4	0 ml/日	15.0	8.3	12.0	0.9	1.4	2.0	0.98	0.015	500	
	2008	9	29	0 ml/日	13.0	8.1	10.0	0.5	0.8	1以下	0.27	0.023	2400	
	2009	6	10	0 ml/日	15.0	8.4	10.0	0.5	1.5	2.0	0.31	0.022	900	
	2009	10	14	10 ml/日	14.0	7.9	10.0	0.5	1.3	2.0	0.41	0.025	1700	
	2010	6	22	20 ml/日	20.0	8.2	9.5	0.5	1.4	2.0	0.38	0.030	500	
	2010	10	13	25 ml/日	19.0	8.0	9.5	0.5	1.3	2.0	0.31	0.016	13000	
	2011	6	8	35 ml/日	18.0	8.0	9.3	0.5	1.4	2.0	0.35	0.022	800	
	2011	10	12	0 ml/日	15.0	8.7	12.0	0.6	1.2	1.0	0.2	0.012	700	
	2012	6	6	5 ml/日	18.0	8.3	9.9	0.9	1.9	2.0	0.55	0.039	1700	
	2012	10	10	0 ml/日	14.0	8.7	11.0	0.5	1.2	1.0	0.26	0.018	1100	
	2013	6	5	5 ml/日	18.0	8.2	11.0	0.7	1.6	2.0	0.32	0.025	300	
	2013	10	2	0 ml/日	21.0	8.4	10.0	0.5未満	1.0	1以下	0.21	0.015	500	
	2014	6	4	0 ml/日	21.0	8.7	9.9	0.7	1.6	2.0	0.45	0.035	13000	
	2014	10	1	0 ml/日	16.0	8.9	11.0	0.5未満	1.5	1未満	0.13	0.012	4600	
	2015	6	3	0 ml/日	18.0	8.4	10.0	0.5未満	1.5	1.0	0.36	0.026	22000	
	2015	10	14	0 ml/日	17.0	8.2	11.0	0.5未満	1.3	1.0	0.22	0.015	500	
	2016	6	1	0 ml/日	15.0	8.6	11.0	0.5未満	1.7	2.0	0.35	0.033	1400	
	2016	10	12	20 ml/日	14.0	7.5	11.0	0.5未満	1.1	1未満	0.36	0.023	1700	
	2017	6	7	0 ml/日	15.0	8.5	11.0	1.0	1.4	2.0	0.39	0.036	2700	
	2017	10	11	0 ml/日	17.0	8.4	11.0	0.8	1.1	1.0	0.06	0.018	7900	
	2018	6	6	0 ml/日	15.0	7.8	10.0	0.5未満	0.8	1未満	0.33	0.019	3300	
	2018	10	10	10 ml/日	15.0	7.8	10.0	0.5未満	0.8	1未満	0.27	0.018	1400	
	2019	6	5	12 ml/日	17.0	7.9	9.5	0.6	1.9	2.0	0.55	0.047	4600	
	2019	10	2	0 ml/日	19.0	8.3	10.0	0.6	1.3	1	0.15	0.009	1300	
	2020	新型コロナウイルス感染症の拡大防止ため調査未実施												
	2021	6	2		16.0	8.1	10.0	0.5	1.2	2	0.33	0.022	490	
	2021	10	6	0 ml/日	17.0	8.7	11.0	0.9	1.4	1未満	0.15	0.011	3300	
	2022	6	1		17.0	8.3	11.0	0.5	1.8	3	0.47	0.032	23	
2022	10	12		15.0	7.8	10.0	0.5未満	1.4	2	0.28	0.018	340		
2023	6	7		16.0	7.9	9.9	0.5未満	0.9	2	0.31	0.021	8		
2023	10	11	0 ml/日	16.0	8.2	11.0	0.5未満	1.8	1	0.39	0.024	57		
2024	6	5	12 ml/日	17.0	7.9	10.0	0.5未満	0.9	1	0.48	0.030	4		
2024	10	2	0 ml/日	20.0	8.7	11.0	1.0	1.5	1	0.15	0.012	38		

参考資料④

水質調査において、宮川の他地点との比較のため岐阜県が実施する公共用水域水質測定結果(生活環境項目)を以下に示す。

水域名	本地名 (河川名等)	地点名	類型	pH			DO			BOD			SS			大腸菌数											
				最小値	最大値	m	最小値	最大値	m	最小値	最大値	m	1/3日値	最小値	最大値	m	最小値	最大値	m								
揖斐川	揖斐川(1)	日島橋		7.4	7.8	0	12	9.1	13	0	12	<0.5	1.2	1	12	0.7	1	5	0	12	7	2300	6	12	170		
	揖斐川(2)	池田橋	AA	7.5	7.8	0	12	8.9	12	0	12	<0.5	1.6	0	12	0.7	<1	5	0	12	2	120	4	12	45		
	揖斐川	山口		7.6	8.2	0	12	9.1	13	0	12	<0.5	0.7	0	12	<0.5	<1	11	0	12	7	75	7	12	75		
	揖斐川	藤永橋		7.5	8.1	0	12	8.9	13	0	12	<0.5	0.8	0	12	0.7	<1	6	0	12	13	150	11	12	170		
	揖斐川上流	一之瀬橋		7.4	8.1	0	12	8.7	12	0	12	<0.5	0.8	0	12	0.7	<1	4	0	12	3	150	9	12	130		
	揖斐川	揖斐川 AA類型 計				0	60				0	60			1	60			0	60				37	60		
	揖斐川(3)	揖斐大橋		7.4	7.6	0	12	6.4	11	2	12	<0.5	1.4	0	12	0.8	2	6	0	12	1	170	0	12	130		
	揖斐川(3)	湯上橋		7.5	7.8	0	4	8.7	10	1	4	0.7	1.8	0	4	1	5	17	0	4	23	450	1	4	430		
	揖斐川	湯上橋	A	7.3	8.4	0	24	8.7	12	3	24	<0.5	1.9	0	24	1.2	2	25	1	24	64	230	0	12	200		
	揖斐川	野口橋		7.2	7.9	0	4	9	10	0	4	0.7	0.8	0	4	0.8	2	5	0	4	58	220	0	4	220		
	揖斐川中流	湯上橋		7.2	7.6	0	12	6.1	12	3	12	<0.5	0.6	0	12	0.5	2	23	0	12	36	9000	2	12	5400		
	三木川	三木川橋		6.9	7.6	0	12	8.7	13	0	12	0.5	1.2	0	12	0.7	<1	12	0	12	120	350	2	12	310		
	揖斐川	揖斐川 A類型 計				0	60			9	60			0	60			1	60		1	60		5	56		
	相川	相川		7.1	7.8	0	12	8.8	12	0	12	0.5	2.9	0	12	1.8	<1	6	0	12	27	200	0	12	150		
	津波川	津波大橋	B	7	8.6	1	12	5.8	12	0	12	1.2	3.8	4	12	3.1	4	25	0	12	6	600	0	12	460		
揖斐川	揖斐川 B類型 計				1	24			0	24			4	24			0	24					0	24			
水内川	二水橋		7.2	7.7	0	24	5.2	11	0	24	1.6	4.9	0	24	3.7	4	30	0	24								
水内川	八住橋	C	7.1	7.5	0	4	8.3	8.7	0	4	2.4	3.2	0	4	2.8	3	6	0	4	2000	7000			4	7000		
牧田川下流	赤野		7.3	7.6	0	24	6.1	11	0	24	<0.5	2.7	0	24	1.4	1	18	0	24								
揖斐川	揖斐川 C類型 計				0	50			0	50			0	50			0	50		0	50		0	4			
宇波川	宇波合流橋		7.2	7.3		4	8.1	9		4	0.9	5.3		4	1.5	5	9		4	5	160		4	360			
大井川	大井橋		7.6	8.2		4	6.3	11		4	1.4	3.6		4	2.7	6	14		4	9	15		4	15			
花田川	花田川合流橋(花田川側)		7.1	9.1		4	10	11		4	0.8	1.3		4	1	<1	8		4	130	210		4	210			
揖斐川	揖斐川 類型なし 計				12				12					12				12						12			
佐内川上流	揖斐大橋	A	7.2	7.8	0	12	8.2	14	0	12	<0.5	1.3	0	12	0.9	<1	6	0	12	60	160	0	12	160			
佐内川	揖斐川		7.3	8.4	0	12	8.2	13	0	12	<0.5	4.1	1	12	0.8	<1	19	0	12	20	6000	3	12	540			
佐内川(土岐川) A類型 計					0	24			0	24			1	24			0	24		0	24		0	24			
佐内川中流(1)	三井橋		7.3	8.7	1	12	8.3	14	0	12	0.8	1.8	0	12	1	<1	10	0	12	57	350	0	12	370			
佐内川中流(1)	大友橋		7.2	7.6	0	12	8.1	12	0	12	0.8	2.1	0	12	1.4	1	9	0	12	130	4400	1	12	670			
佐内川中流(1)	多治原橋		7.4	7.7	0	4	8.4	12	0	4	0.5	0.8	0	4	0.7	1	4	0	4	310	720	0	4	720			
佐内川	辰田橋	B	7.2	7.7	0	12	8.2	15	0	12	<0.5	1.6	0	12	0.9	<1	4	0	12	58	2700	2	12	1000			
小里川	はら子橋		7.5	8.1	0	12	8.5	14	0	12	<0.5	1.2	0	12	0.8	<1	17	0	12	81	420	0	12	330			
小里川	川口橋		7.3	7.8	0	4	8.5	13	0	4	<0.5	0.8	0	4	0.7	1	12	0	4	3	220	0	4	220			
栗木川	栗木橋		7.3	8.5	0	12	8.7	15	0	12	<0.5	2	0	12	1	<1	23	1	12	20	3000	1	12	420			
佐内川(土岐川) B類型 計					1	60			0	60			0	60			1	60		1	60		4	60			
神通川上流	一宮橋		7.1	7.6	0	12	8.6	13	0	12	<0.5	0.9	0	12	0.6	<1	2	0	12	3	63	4	12	48			
神通川上流	湯井橋		7.4	8.1	0	12	9.5	13	0	12	<0.5	1	0	12	0.5	<1	1	0	12	1	31	4	12	52			
神通川下流	新野谷	AA	7.5	8	0	12	9.2	13	0	12	<0.5	1	0	12	0.8	<1	3	0	12	10	220	8	12	94			
神通川(宮川)	新野谷		7.7	8	0	12	10	13	0	12	<0.5	1	0	12	0.6	<1	6	0	12	6	65	5	12	82			
神通川(宮川) AA類型 計					0	48			0	48			0	48			0	48					25	48			
神通川下流	宮橋		7.3	7.9	0	12	8.9	14	0	12	<0.5	1.7	0	12	0.9	<1	3	0	12	12	5000	7	12	4900			
神通川下流	新野橋		7.4	8	0	12	9.3	13	0	12	<0.5	1.3	0	12	1	<1	5	0	12	10	270	0	12	170			
神通川	宮川合流橋	A	7.3	7.7	0	6	9.5	12	0	6	<0.5	1.1	0	6	1	<1	2	0	6	14	160	0	6	160			
神通川	宮川合流橋		7.1	7.8	0	12	9.1	13	0	12	<0.5	1.4	0	12	0.8	1	4	0	12	17	440	2	12	320			
小島川	宮川合流橋		7.1	8.3	0	6	10	12	0	6	<0.5	0.8	0	6	0.7	<1	1	0	6	1	40	0	6	40			
小島川	下小島ダム		7.6	7.9	0	4	8.8	11	0	4	<0.5	1	0	4	0.8	<1	1	0	4	1	3	0	4	3			
神通川(宮川) A類型 計					0	52			0	52			0	52			0	52		0	52		9	52			
水内川	深田合流橋		7.7	8		4	9.1	12		4	<0.5	1.1		4	0.6	<1	13		4	30	140		4	140			
神通川(宮川) 類型なし 計					4				4				4				4		4				4				

※赤枠内が宮川水系の水質調査結果。

参考資料⑤

宮川に生息する魚類の参考として生息魚類を以下に示す。

生息魚類一覧

目名	科名	魚種名	河川区分		代表種		
			打保区間	蟹寺区間	生息場所	産卵場所	
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ	○	○			
ウナギ	ウナギ	ウナギ(放流)	◎	◎	全域	海洋	
サケ	サケ	イワナ	●	◎	瀬	瀬	
		ヤマメ	◎	◎	瀬	瀬	
		アマゴ	◎	◎			
		ニジマス	◎	◎			
		ブラウントラウト	◎	◎			
	アユ	アユ(放流)	●	◎	瀬	瀬	
コイ	コイ	コイ	◎	◎			
		フナ類	◎	◎			
		アブラハヤ	◎	●			
		タカハヤ	○	○			
		タモロコ	○	○			
		カワムツ	◎	○			
		オйкаワ	●	◎	河川全域	瀬	
		ハス	○	○			
		ウグイ	●	●	河川全域	瀬	
		カマツカ	◎	●			
		ニゴイ	◎	◎			
		ドジョウ	ドジョウ	◎	○		
			シマドジョウ	○	○		
	アジメドジョウ		○	○	瀬	地下水脈	
ナマズ	ナマズ	◎	◎				
	ギギ	●	●				
カサゴ	カサゴ	◎	◎	瀬	瀬		
スズキ	ハゼ	カワヨシノポリ	●	●	河川全域	瀬	

注)確認魚種は以下の調査、ヒアリングによる

- 本調査によって確認
- ◎ その他調査等によって確認
- 宮川下流漁業協同組合ヒアリング

宮川の鮎による 地域コミュニティー報告書

令和7年1月

飛騨市 宮川振興事務所

目次

目次	・・・P2
飛騨市宮川町の「鮎」活用の取り組み	・・・P3
鮎の販路拡大のための取り組み	・・・P4
やなの家における鮎の販売状況	・・・P5
遊漁者・漁業者数、鮎の買取・販売及び利用事業	・・・P6
宮川町の宿泊施設の利用状況、鮎釣りプラン利用実績	・・・P7. 8
地域活性化イベント	・・・P9
令和6年度の一級河川 宮川での活動状況	・・・P10. 11

飛騨市宮川町の「鮎」活用の取り組み

◆みやがわ鮎の知名度向上と活用

「飛騨清流みやがわ鮎」



飛騨市は、森林率が93%を占め、うち約7割が広葉樹です。広葉樹からの栄養素が多く豊富な谷川を通じて宮川に注がれ元気で美味しい鮎が育まれています。

「飛騨あばれ鮎（ブランディング）」



「飛騨清流みやがわ鮎」のうち、室田正鮎釣り名人と(株)ヒダカラが協力し、買取り・選別を行った鮎が「あばれ鮎」です。

鮎の販路拡大のための取り組み

◆みやがわ鮎の知名度向上と活用

令和元年度

○鮎釣り客の拠点「川の家」の整備

- ①種鮎保管池を増設
- ②急速冷凍機
- ③真空包装機
- ④超低温フリーザーの購入

○清流みやがわ鮎のPR

富山市「KNB大バザール2019」に参加し、みやがわ鮎の塩焼きを販売

○【日本一の鮎づくり事業】

- ①利き鮎会の開催
- ②味くらべのイベントの開催

令和2年度

○清流みやがわ鮎のPR

- ①豊洲市場への鮮魚状態で出荷するための機器整備補助
- ②PR広告の掲載

○販売ルートの開拓

(株)ヒダカラによる、ミシュラン2つ星店や豊洲市場への出荷を開始

(豊洲市場への出荷実績)

R2 約 2, 500 匹

令和3～6年度

○豊洲市場への出荷実績

R3 約 10, 000 匹

R4 約 4, 000 匹

R5 約 4, 500 匹

R6 約 3, 500 匹

R6は、販売者の(株)ヒダカラが及び鮎釣り名人の室田正氏が、豊洲市場の他、ミシュラン2つ星店などの販売先を優先し出荷。

このため豊洲市場への出荷量が前年に比較し減少。

【R5豊洲市場における評価】

香りが良く、身に締りがあり、見た目も良い。都内の料亭からも指名がよく来るので、可能な限り毎回出荷して欲しい。

【R6豊洲市場における評価】

R6は、全国的に鮎が洪水、生育不良の影響により市場での取り引きが減少。豊洲市場としては鮎の出荷先が徳島、飛騨程度であるためもっと出荷数量、出荷先も確保したい。(バイヤーの声)

令和5～6年度

○(株)ヒダカラの出荷状況

R5 料亭 : 941匹

豊洲 : 3,150匹

その他 : 1,318匹

計 5,409匹

R6 料亭 : 1,288匹

豊洲 : 3,036匹

その他 : 900匹

計 5,224匹

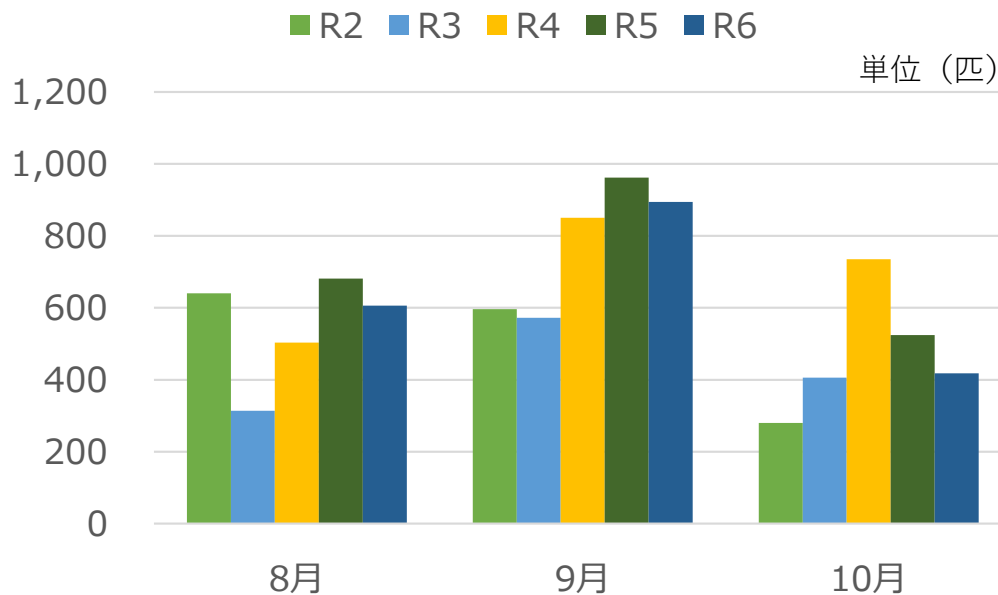
✓引き続きブランディング鮎を観光誘客促進に繋げたい！

★年々、みやがわ鮎の知名度及び需要が高まって来ており 観光振興、誘客の観点からも「刺し網漁」による鮎確保をこれまで以上に力を入れる必要がある。

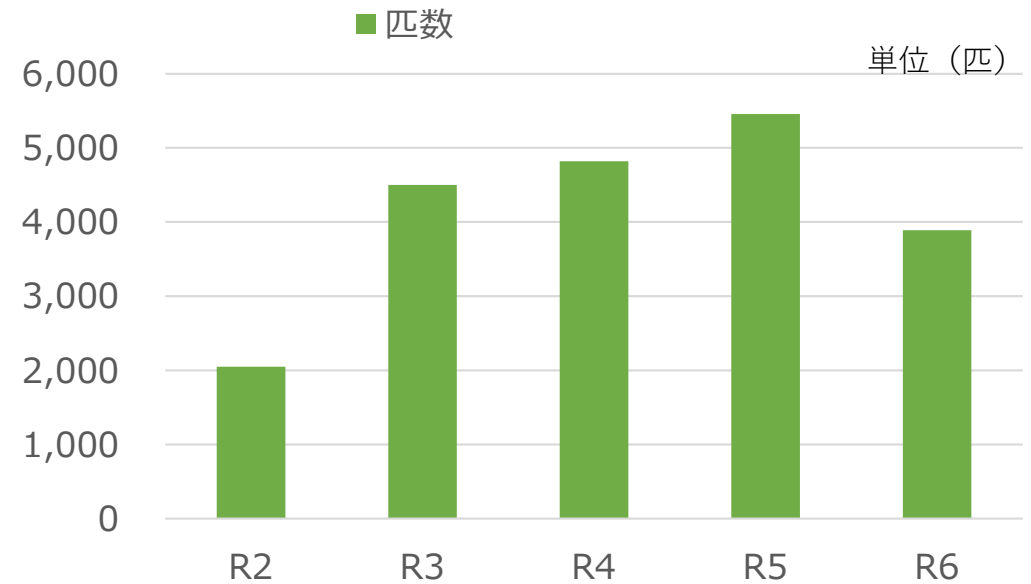
やなの家における鮎の販売状況

◆みやがわ鮎の知名度向上と活用

やなの家（旧杉原ヤナ） 鮎販売数



やなの家（旧杉原ヤナ） 鮎買取数



【状況】旧杉原ヤナは、平成30年7月の大洪水により、ヤナ場が流れ再建困難となりました。しかしながら、毎年たくさん利用される北陸からのお客様の要望に応えるため、翌年度から飛騨まんが王国のレストランを「川の家」とし、鮎を釣り客や地元町民から買い取り、提供を行って来ました。令和2年度からは、旧ヤナの建物を「やなの家」として活用し、買取った鮎を塩焼き、鮎飯等の鮎料理として、お盆～10月下旬の土日、祝日に提供しています。**鮎の買取は、8月盆までは友釣りに訪れる飛騨まんが王国の常連客や車中泊の方から購入し、8月24日の刺し網解禁後は、地元町民から買い取りを行っている。買取数量が、川の状況や鮎の生育により年々変化するものの超低温フリーザー等を導入したりと設備対応をしており、販売数量が不足することなく必要数を確保している。常に2,000匹の鮎がフリーザーに確保をされるように努めている。また、不足する場合は地元漁師から優先的に譲ってもらうなど買い取り先を確保している。**お客様は北陸方面からが約8割占め、9月のシルバーウィーク頃の来場が多く、子持ち鮎の人気が高いため、子持ち鮎の確保を高める必要がある。

やなの家の閉鎖後は、飛騨まんが王国のレストラン「川の家」で通年提供している「鮎釜飯」、「鮎のからあげ定食」などで鮎を消費している。また、飛騨まんが王国の宿泊客の料理にも「鮎南蛮」や「鮎のからあげ」を提供しており好評である。令和6年度は前年度に比較し来場者、団体数はほぼ同じであったが、団体客のグループ人数が減少したことにより鮎の販売数が減少したものと考えている。今後は、宮川振興事務所と連携し北陸地方へのPRを強化し、またホームページの充実を図るなど認知度を高め、来客を伸ばしていきたい。

遊漁者・漁業者数、鮎の買取・販売及び利用事業

◆遊漁者数・漁業者数

		打保区間		蟹寺区間 (共有漁場除く)		合計	摘要
		維持放流 抑制期間	その他 期間	維持放流 抑制期間	その他 期間		
遊漁者数	友釣り	167	1,108	1,058	4,588	6,921	関西電力河川巡視報告 参照
漁業者数	刺し網	57	0	104	0	161	宮川下流漁協漁獲量調 査参照
	友釣り	4	39	9	74	126	
	投網	9	4	6	2	21	

◆鮎買取・販売及び利用事業実績

	買取販売事業				利用事業	
	買取り		販売		取扱尾数	金額
	尾数	金額	尾数	金額		
令和4年	1,195	220,500	965	299,000	5,183	89,826
令和5年	2,111	388,200	2,085	607,450	5,811	106,332
令和6年	2,087	387,200	2,087	626,900	1,581	44,770

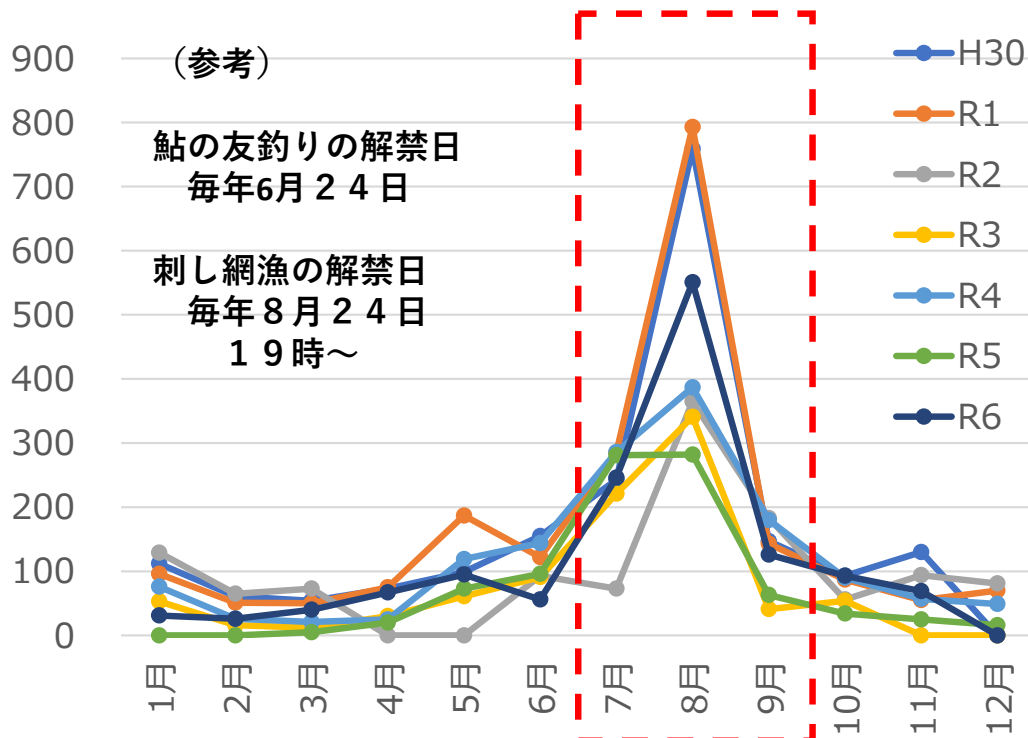
※宮川下流漁業協同組合では、令和4年から組合員の漁業振興を目的として、組合員からの鮎の買取と販売、漁獲した鮎の品質向上のための、品質管理設備の利用について事業化をされた。

資料提供：
宮川下流漁業協同組合

宮川町の宿泊施設の利用状況

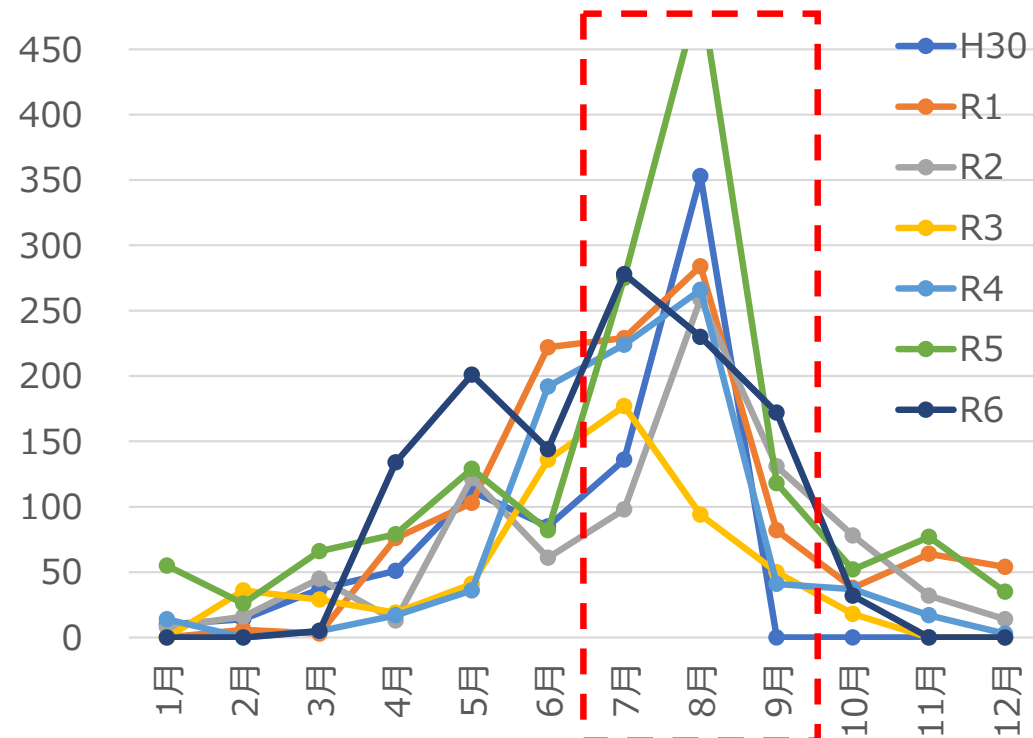
旅館A 宿泊人数

単位 (人)



民宿B 宿泊人数

単位 (人)



R6.11月の宿泊データは掲載していません。

【評価】 宮川町の宿泊施設の売上はアユ釣り客に支えられており、年間売り上げはアユの友釣りシーズンが占めている。今後アユの友釣りプランの増設などを検討し宿泊客の増加に繋げたい。

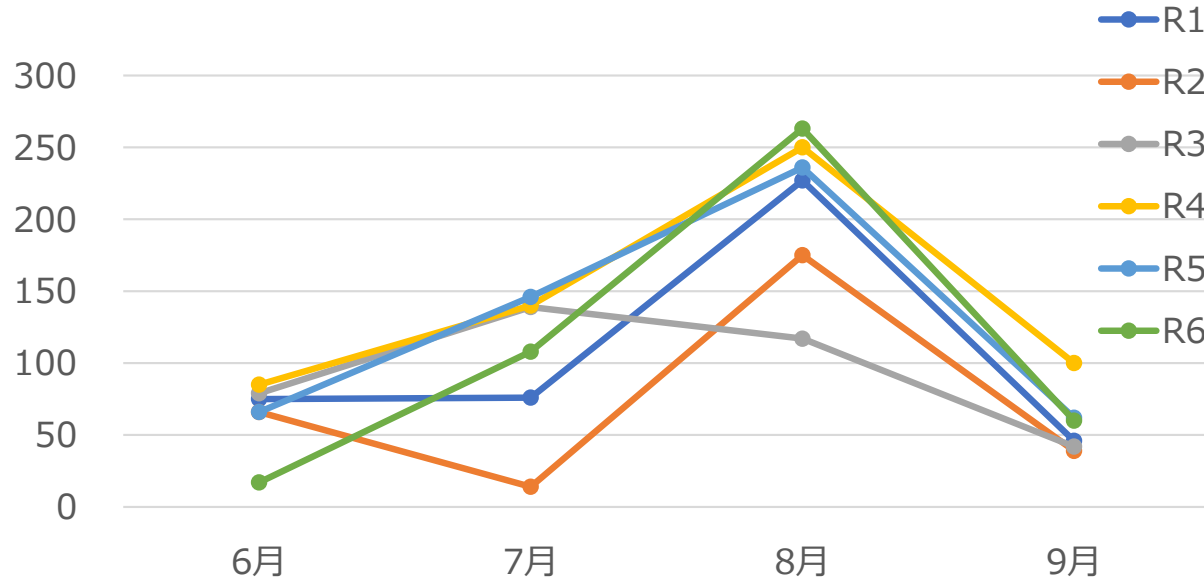
【令和6年度】

R6年度は、解禁後から7月上旬にかけて河川の増水した日が多く、友釣り客が入川できなかったため、宿泊客が減少した。

宮川町宿泊施設 鮎釣りプラン利用実績（旅館A）

旅館A 宿泊人数

単位（人）



- ・鮎友釣り解禁より
1泊2食付 8,350円/人(消費税・入湯税込)
- ・宿泊施設の利用状況（7ページ）と比例し、鮎釣りプラン利用者は梅雨時期（6～7月）の河川状況によって利用者の減、梅雨明け後に利用者の増加となっている。

(参考)飛騨まんが王国 RVパーク利用実績（車中泊 1泊1,500円/台）予約制

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		計	
	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無	電源有	電源無
令和2年度	1台	1台	0台	0台	8台	63台	6台	0台	41台	94台	18台	13台	9台	10台	5台	3台	2台	1台	90台	185台
令和3年度	8台	2台	23台	6台	20台	100台	39台	169台	68台	87台	0台	0台	21台	8台	9台	3台	0台	0台	188台	375台
令和4年度	18台	3台	28台	6台	17台	65台	23台	134台	59台	223台	16台	89台	11台	7台	13台	4台	2台	1台	187台	532台
令和5年度	4台	2台	19台	8台	13台	59台	45台	280台	74台	346台	25台	60台	16台	16台	15台	1台	4台	0台	215台	772台
令和6年度	14台	8台	13台	10台	11台	45台	53台	221台	67台	313台	31台	70台	6台	7台	9台	4台	0台	0台	204台	678台

鮎釣りシーズン(6～9月)の電源無は、鮎釣り利用者。(連泊利用や再来訪)
R5年度から電源有を利用する鮎釣り客が増え、シーズン中に複数回の利用がある。
旅の途中での利用者、まんが王国入館者や連泊で昼間は、どこかへ出かける利用者もあり。

資料提供：(株)飛騨ゆい 飛騨まんが王国

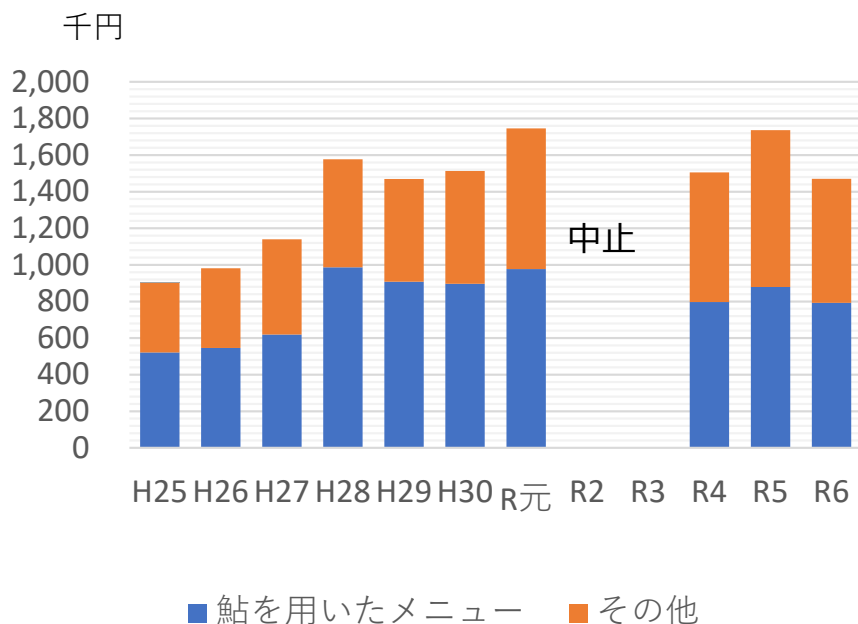
地域活性化イベント

飛騨市宮川町内のイベントは、毎年11月に【飛騨種蔵 新そばまつり】を開催しており、町内でとれた鮎の「鮎そば」、「子持ち鮎」を使った「鮎飯」、「鮎の塩焼き」を販売し、たくさんの方が訪れている。

令和6年は11月2・3日の土日に開催したが、土曜日は雨に見舞われたため、売り上げは令和5年度に比べ減少した。来場者は飛騨地域の方々や北陸や関東、関西など遠方から訪れており、リピーターも増加している。

また、平成30年度から岐阜大学と連携し、学生がスタッフとして店舗等の手伝いや「種蔵GO」というイベントを企画され、まつりを盛り上げています。

「飛騨種蔵 新そばまつり」の売上



一級河川 宮川での活動状況

「宮川町で海洋プラスチックごみの清掃活動」を実施しました。

令和5年度に続き、令和6年6月18日に世界規模で問題となっている海洋プラスチックごみを一掃しようと開催しました。地元吉城高校の生徒や漁協、遠くは千葉県市原市からも参加され、計55名でプラ製品、可燃ごみ、金物など177kgの廃棄物を回収しました。



一級河川 宮川での活動状況

「宮川小児童が、刺し網漁や鮎の美味しさ」を体験しました。

令和6年6月6日に宮川下流漁業協同組合の協力を得て、児童が稚鮎の放流体験を行い、9月27日には、刺し網漁で捕まえた鮎の網はずし体験や鮎の雌雄の見分け方など鮎について学ぶ会を開催しました。鮎の塩焼きも味わってもらったなど1日、宮川の鮎について学びました。

